

「伊香高をつぶしたら街がさびれる。絶対つぶさせない」、地元商店街の主人が熱を込めて語ります。10月23日、木之本町の公民館で開かれた「伊香高を守るシンポジウム」は地域の思いを1つにしました。正面の看板には「三万一心のねがい」とあります。市会議員、同窓会、自治会、老人会、教職員、地域住民ら約60人が参加し伊香高を守る思いを確かめ合いました。

司会は伊香高校の山田さんです。

まず、長浜市の柴田市議があいさつし、「県立高校の統廃合を考える会」の杉原さんの講演、「湖北の高校を守る会」の對月さんの報告と続きます。その後、会場から次つぎに手が上がります。

山も田も人の絆もズタズタに

地元商店街の男性

伊香高をつぶしたら木之本町が疲弊する。絶対につぶさせない。いつも過疎地がしわ寄せを受け南北格差がますますひどくなる。山も田も人の絆もズタズタにされる。単なる高校の問題ではない、街の勢いがなくなる。教育へのお金の使い方が45番目はひどい。

長浜市議

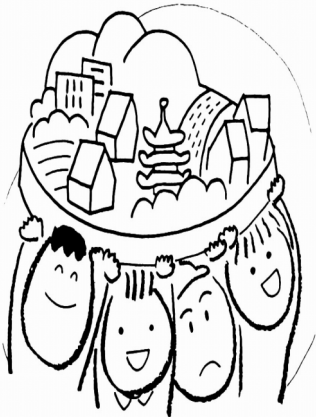
湖北から高校生が減る原因に、子どもたちの南下がある。全県一学区を元に戻さないといけない。

教育行政の変化全体を視野に入れていきます。確かに、70～80人が彦根東や、もっと南の学校に出て、湖北が元気をなくす1つの原因になっています。

専門学校になる話

地域の住民

専門学校になるかも知れない、という話があるがどうか。



「考える会」

まずないと思う。廃校と民営化を同時にやることは考えられない。ただ、この前の米原での説明会で、伊吹高校が米原高校の分校になる話があるが、との質問で、担当者は否定しなかった。だから、伊吹を米原の分校、伊香を虎姫の分校という話があり得ないわけではない。それで2つの学校がつぶせるし、市内で1つ減らせば3つつぶせる。

長浜農業のPTA会長

ここへ寄せてもらったのは、エゴかも知れないけど自分の子どもがかわいいからだ。統廃合で下級生がいなくなったら寂しい。高校生を犠牲にするのはあんまりだ。

「考える会」

子どもや地域を大事にする気持ちは、エゴでも何でもなし。人間を大事にし社会を大事にする教育そのものだ。

伊香高校からも5人の教職員が参加

伊香高出身で伊香に勤める体育の教師は思いの丈を語ります。

伊香高教職員

伊香高で17年教師をしている。母校がなくなるのではないかと危機感をもって、寄せていただいた。地域に根ざした学校体育のあり方を研究している。武道推進校として、全国の研究発表大会があり優秀校の表彰を受けた。

これにこたえて、会場から「伊香高の生徒たちはよくがんばっている。いつも街の花壇の手入れをして街がきれいだ」の声。

発言の1つ1つに拍手が湧きます。そのたびに参加者の心がつながっていききました。



高校統廃合はストップせよ
速報 第31号 2010/10/27 発行：滋賀高教組

(増し刷りして全教職員に配布し、また掲示板に貼るなどして下さい)